

高成長を遂げるタイ証券市場

— 国王崩御に見たASEAN屈指の市場が持つしたたかさ —



NRIタイ 金融ITソリューション部門長

こばやし かずき
小林 和樹

専門は証券会社の事業戦略、システム企画、海外進出支援

タイ証券市場は2013年に売買取引量でシンガポールを抜き、ASEAN屈指の証券市場として存在感を増している。日系企業のタイ進出も相次ぐ中、2016年10月、プミポン国王の崩御が発表された。かつてない悲しみに包まれつつも証券取引は継続され、タイは経済混乱を回避。新興市場をけん引するほほ笑みの国、タイの内に秘められたしたたかさを見た。

ASEAN 屈指のリテール証券市場

国際取引所連合（WFE）によると、タイ証券取引所は売買取引量で、ASEAN最大の規模を誇る（2016年8月時点）。また、同取引所によると、この10年で時価総額が年平均10%の高成長を遂げている。タイ証券市場は、国内の個人投資家の占める割合が大きいが特徴だ。その比率は過半数を占め、海外投資家の存在が大きい日本市場とは異なり、タイ市場で最も存在感を発揮しているのはタイ人ということになる。

日系企業はこの有望なリテール証券市場に続々と参入し、タイ現地投資家を顧客とした「グローバル事業」を加速させている。「グローバル」とはグローバルとローカルを掛け合わせた造語で、「世界を意識しながら、地域の特性を生かす」といった意味である。

活発化する日系企業のグローバルビジネス

日系企業の具体的な進出を見てみよう。

1970年に進出した野村ホールディングスは、タイ現地法人のキャピタル・ノムラ・セキュリティーズを2014年に公開買い付けにより連結子会社化した。SBIホールディングスも2015年10月に現地大手証券会社であるフィナンシア・サイラス証券との合併で、タイ初となるインターネット専門証券事業を開始。2016年10月にはGMOクリックホールディングスがタイ進出を発表している。

また、大和証券グループ、SMBC日興証券、東海東京ホールディングスなど、現地証券会社との業務提携を通じてタイ市場に参入する日系企業も相次いでいる。直近では、2016年8月にみずほ証券が売買取引最大手メイバンクキムエン証券との提携を開始したばかりだ。

2013年に発足し、コンサルティング事業からスタートしたNRIタイも、2015年に現地日系証券会社の支援から金融ITソリューション事業を開始。以来、情報システムの整備・構築提案など、金融・証券向けのITソリューションを通じて日系企業を含むタイ現地金融機関の事業をサポートしている。

かつてない悲しみの中 前に進み続けたタイ社会

躍進するタイにおいて、2016年10月13日にプミポン国王の崩御が発表された。70年にわたり在位した国王の人気は絶大で、同日にはテレビ放送を通じて「国民は悲しみに暮れているだろうが、各自の責任を果たすように」「皆で経済を安定させること」などのメッセージが政府から国民に向けて送られたほどだ。

老若男女問わず国民からの支持が厚かっただけに、国王崩御時には混乱に伴う経済低迷の可能性もあるのではと考えられていた。また、タイ市場の主要な投資家である国内個人投資家の動向も危惧され、先行き不安による株価への影響も懸念されていた。しかし、翌14日も証券取引は継続し、タイの主要株価指数であるタイ証券取引所指数（SET指数）は上昇、経済混乱は回避された。

崩御が発表されると国全体が一斉に喪に服した。NRIタイの顧客である現地日系証券会社でも、翌日にはFacebook、LINEなどSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）のカラーを、服喪を表すモノクロに変更し（タイはSNSの利用者が非常に多く重要なマーケティングツールとして活用されている）、自社のタイ公式Webサイトのトップページに国王崩御への哀悼メッセージを表示するなどの対応を行った。

NRIタイでは顧客企業の商品開発時におけるシステムやITマネジメント、業務システムの構築、業界市場調査・分析、現地企業との関係構築に加え、社長や取締役のアドバイ

ザー役として、経営者の意向をくみ取った戦略支援などマネジメント面のサポートを行っている。顧客企業の支援を通じてこの時に学んだのは、愛する国王を失った悲しみをこらえ、個人だけでなく企業や団体が一丸となり、経済混乱を回避したタイ人・タイ社会の強さ、したたかさだ。

証券市場は社会を映し出す鏡

株価は世の中の流れと密接な関わりを持っており、経済や社会の動きに反応して上下する。言うなれば、証券市場の数字は世の中を映し出す鏡のようなものだ。それはまた、私たちが生きている世界を描くドラマのようでもある。プミポン国王崩御翌日のSET指数上昇も、タイの内に秘められたたくましさ映し出された結果であると分析できるだろう。

タイ証券取引所に上場する企業の中でもSET50（時価総額が大きく流動性の高い上位50銘柄で構成される株価指数）には、世界的な影響力を増しているタイ最大の複合企業CP（チャロン・ポカパン）グループの企業や、タイ国際航空など現地大手企業が名を連ねる。また、日系の上場企業も存在する。SET指数は、タイのみならず世界動向を示す指標として、ますます注目度の高まりが予想される。

NRIタイは顧客である現地金融機関のために、そしてその顧客である現地個人のために、さらにはその先にある社会のために、「ボム・ラックン・タイ！（I love Thailand!）」の精神で、今後も市場の成長を支援していく。 ■